

相模原市立公文書館第22回企画展

近代水車の世界

郡役所と町村役場資料から見た水車



開催期間・時間

令和5年

1月23日(月)

3月24日(金)

午前8時45分～午後5時

休館日 / 土・日曜日、祝日

なお、公文書館トーク・トーク(展示解説)の開催日は開館します。

公文書館トーク・トーク(展示解説)開催日 /

令和5年2月18日(土)、3月18日(土) いずれも午後2時～3時

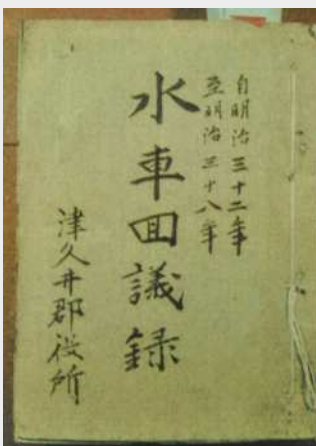
相模原市立公文書館

所在地 相模原市緑区久保沢1-3-1 / 電話042(783)8053

糸を紡ぎ、布を織り、木を挽く さがみはらの水車

水車の出現ははるか古代に遡り、一般に普及したのは江戸時代中期頃からとされ、米搗き（こめつき）に利用されるようになり、運上（営業税）も納入されるようになります。さらに、明治期になると紡績・製織、木挽（こびき） 発電などの動力源として広く利用されます。

明治期以降、水車には神奈川県水車規則により水車税が課せられており、設置・改廃について届け出ることとされ、届出は町村役場を経由することから郡役所資料や町村役場資料に届出書類が残されています。これら資料から相模原市域において、その地域特性や産業によって設置されていた様々な水車の世界を紹介します。



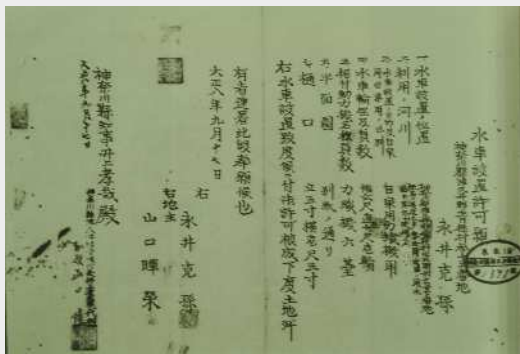
津久井郡役所資料(明治 32 年 ~)



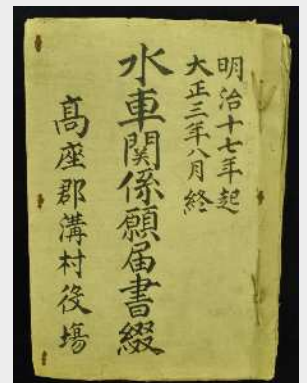
八丁撚糸機用水車歯車
(明治後期)



江戸期水車絵図(角田家所蔵)



水車設置許可願(左)と
力織機工場(青根永井家)(下)



溝村文書(明治 17 年 ~)

相模原市立公文書館

〒252-5192

相模原市緑区久保沢 1 - 3 - 1

城山総合事務所第 2 別館 3 階



【アクセス】橋本駅北口からは「橋 01 三ヶ木」行き、南口からは「橋 08 若葉台住宅」行きのバスが出ています。三ヶ木方面からは橋本駅行きバスを利用、「城山総合事務所入口」で下車。徒歩 3 分。

ご来館の際は、マスクの着用など新型コロナウイルス感染症感染防止対策にご協力をお願いします。